

# 年間取扱概要

## 1 総取扱高

平成29年1月から12月における青果物の総取扱高は、数量273,922 t、金額62,166,146千円であった。前年と比較すると、数量は9,398 t減少（前年比3.3%減）し、金額は4,693,958千円減少（前年比7.0%減）した。

平均単価は227円となり、前年と比べて9円減少（前年比3.8%減）した。

## 2 部別取扱高

### (1) 野菜

1月～6月は道内産「ばれいしょ」が前年の台風の影響により、作況が悪かったため、数量が減少した。また、道内産「きゃべつ」が春先の強風の影響により、作況が悪かったため、数量が大幅に減少し、道外産の引き合いが強く、単価が増加した。

7月～12月は年末に本州の長雨や台風の影響により、一部品目で品薄、単価高となったが、全体としては大きな被害もなく、数量は前年並みであった。道内産「ばれいしょ」は、小玉傾向で、数量が減少となり、単価がかなり減少となった。また、道内産「たまねぎ」は、小玉傾向で、数量がやや減少となり、単価が減少となった。

野菜全般では、1年を通してみると、数量は221,219 t（前年比3.9%減）で微減、金額は、43,092,025千円（前年比8.4%減）でやや減少となった。

なお、平均単価は195円（前年比4.4%減）で微減となった。

### (2) 果実

道内産「スイカ」は、定植期、生育期の日照不足、低温の影響により着果不良、生育不良となり、数量は微減となったが、本州からの引き合いが強く、単価高で推移し、金額は前年並みとなった。

道内産「メロン」は、天候による被害も少なく、数量、金額、単価とも前年並みとなった。

「みかん」は、生育期の長雨や台風の影響により、小玉傾向となり、数量がやや減少したものの、単価がやや増加したため、金額は前年並みとなった。

果実全体としては、数量は52,703 t（前年比0.7%減）で前年並み、金額は、19,074,121千円（前年比3.8%減）で微減となった。

なお、平均単価は362円（前年比2.9%減）で前年並みとなった。